

声明——2017年衆議院議員総選挙の戦いを振り返って

私たちは立憲主義回復の確かな一步を築いた

2017年11月27日 東京1区市民連合呼びかけ人会議

かつて経験したことのない戦いでした。立憲主義を取り戻す戦いでした。そして戦争させない、いのちと暮らしを守る戦いでした。その戦いにここ東京1区で私たちは海江田万里さんを当選させ、勝利しました。勝利のために尽力いただいたすべてのみなさん、なかでも下支えいただいた労働組合のみなさん、都・区議会議員のみなさんに、改めて心からお礼を申し上げるものです。

私たちは、安保法制（戦争法）反対闘争のなかで生まれた「野党は共闘」の声に押され、昨年秋から準備を始め、今年2月14日に「東京1区市民連合（仮称）準備会」を立ち上げました。運動体を立ち上げたものの、未経験の領域は率直に言って手探りでした。しかし私たちは知恵を持っていました。それは、有権者にその存在を知ってもらうための「宣伝」と、私たち自身を高めるための「学習」という、運動の原点に帰ることでした。

その行動は功を奏しました。呼びかけ人と市民連合の賛同者は着実に広がり、拠点としての事務所を構えることができました。その矢先、大義なき解散が日本列島を襲ったのです。党利党略の解散でしたが、私たちに焦燥感はなく、戦いを本格化させるべく名称から「準備会」をはずし、10月3日正式に「東京1区市民連合」として私たち呼びかけ人は3人の共同代表を選出、事務局体制を強化して戦いがスタートしました。

並行して、野党3党（立憲、共産、社民）による候補者選定の協議も行われてきました。協議に際して、安倍暴走政治を許さないとして高田馬場で宣伝行動を継続してきた「高田馬場有志の会」のみなさんの力添えは、大きな役割を果たしました。この高田馬場有志の会の活動に自由党も参加しました。

この経過を踏まえ、予定候補として活動してきた日本共産党の富田直樹さんは候補を取り下げることが表明、立憲民主党の海江田万里さんに候補者を一本化することが確認されました。

基本政策についての協議も始まりました。1区市民連合と3野党の間で率直な意見交換が行われ、12項目について合意し公示直前の10月8日、調印が行われました。この調印の懇談会を総選挙のキックオフと位置づけ、その日新宿駅西口で宣伝行動を展開しました。

選挙戦本番に入って、共同代表を先頭に海江田万里候補押し上げの戦いを繰り広げました。街頭で、団地の中で、雨降るなかで「立憲主義を守るため海江田万里を国会におくっていただきたい」と持てる力をいかに発揮しました。その訴えは広がり、有権者に間違いなく届きました。その結果、3000余票の差をつけて、海江田候補は自民党の現職候補を破ることができました。

この戦いの教訓は少なくありません。その最大のものは、市民と野党が共闘すれば1人区でも間違いなく勝てる、という実績を作ったことです。野党共闘分断の危機がありましたが、「野党共闘」を切望する市民の声は、それを乗り越えました。私たちは市民と野党との共闘こそが、未来を拓く唯一の道であることに大きな確信を持ち、安倍内閣打倒の旗をさらに高くかかげるものです。

東京1区で勝利し、全体として立憲野党は増えたものの残念ながら安倍内閣を打倒するにいたらず、改憲に必要な3分の2を超える議席を許しました。しかし私たちは怯みません。市民と野党の共闘は、国政選挙では16年の参議院選挙につづいて今回は2度目と緒についたばかりであり、この戦いは回を重ねるたびに、さらに大きく広がる可能性を秘めているからです。

改めて声を大にして言います。戦争させない。立憲主義をとりもどす——決意を改めて表明し、基本政策12項目の実現のため、海江田万里議員とともに闘うことを決意し、17年衆議院議員総選挙闘争の総括的声明とするものです。